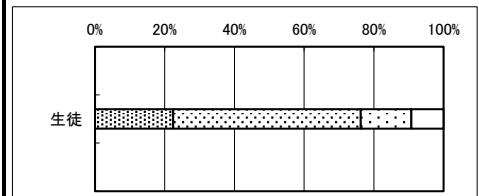


■ 4-そう思う ■ 3-どちらかといえば、そう思う ■ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

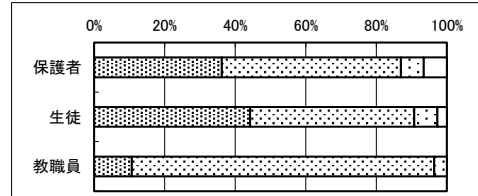
1 教育方針・目標の理解

あなたは、学校の目標（校訓など）がわかっていますか。



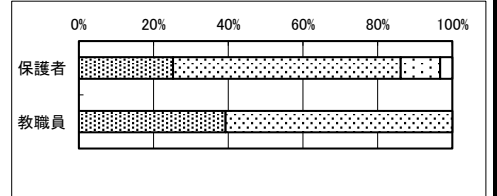
2 意欲的な学校生活

子どもは、充実した学校生活を送っていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、職員同士が連携・協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

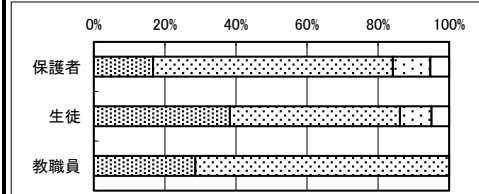


・学校の教育方針及び目標については、学年学級懇談会で直接説明すると共に学年・学級通信等に記載するなど、わかりやすく示していきます。
 ・意欲的な学校生活は、生徒や保護者の約90%が肯定的に捉えています。今後も生徒や保護者の願いやニーズを把握し魅力ある学校づくりに努めていきます。
 ・教師の連携・協力については保護者の約80%以上が肯定的にとらえ、教職員においては100%の結果となり、まとまった組織といえます。教職員同士の報告・連絡・相談の徹底が図られてきています。今年度は通知表の二期制を取り入れ、負担軽減を図りました。今後も業務改革を行いながら学校総体として更なる課題解決に取り組んでいきます。

教科指導について

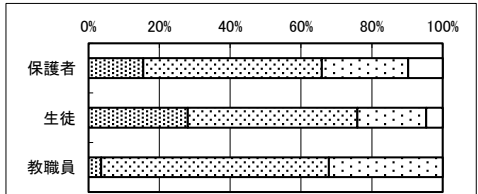
4 授業づくりの工夫

学校は、わかる授業、丁寧な授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

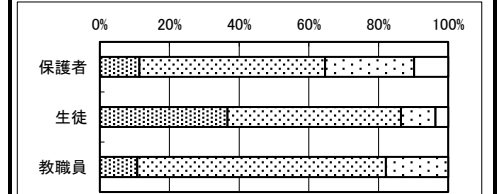
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



総合的な学習の時間について

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

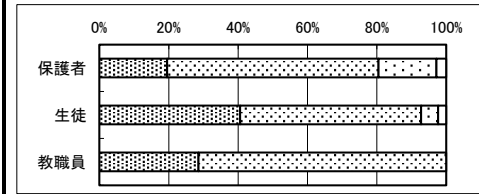


・授業づくりの工夫及び意欲的な学習態度については、教職員・保護者と生徒の間に差が見られます。生徒は学校の指導も丁寧であり自身も意欲的に学習しているという意識があります。その意欲を大切にしながら実態を的確に把握し分かる授業づくりを目指し、少人数指導、ITの充実等、生徒の学習意欲を高めていくため更なる工夫・改善に努めていきます。また、保護者には学校の取組を丁寧にお知らせしていく必要があります。
 ・保護者・教職員と生徒の間に意識の差が見られます。コロナ禍の中、取組が制限されており、保護者に参観していただく機会が激減しました。学級通信等で随時情報提供を行っている現状です。

道徳教育 心の教育について

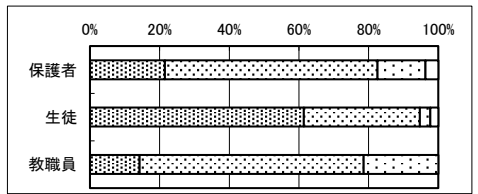
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に努めていると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

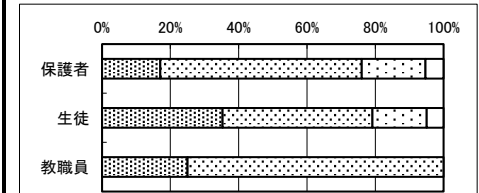


・道徳、心の教育の充実については、豊かな心を育むための基盤となることを教職員が自覚し、要となる道徳の時間を中心としながら、道徳実践力の育成を図りました。担任外の教師が学年に入って授業を行う取組を行い、生徒も大変興味深く授業を受けていました。自分の思いを素直に、適切に表現できる生徒を育てています。結果、保護者・生徒・教師とも肯定的な割合が高い状態を保っています。
 ・あいさつ、礼儀の励行に関して、生徒と保護者・教職員との間に意識の差が見られます。生徒には満足感がありますが、教職員の期待には添っていない状態です。教職員による率先垂範を継続して行いながら、TPOに応じた気持ちのよいあいさつの励行を指導していきます。同時に、家庭や地域との連携・協力をお願いいたします。

人権教育について

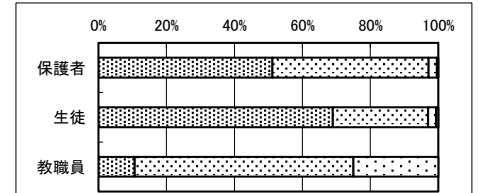
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切に指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

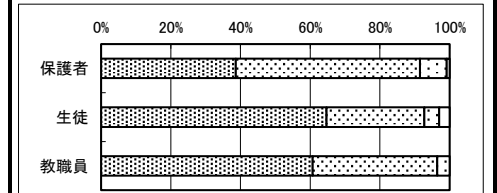
子どもは、友だちを大切にしていると思いますか。



学校行事について

11 学校行事への参加と工夫

学校は、体育大会や合唱コンクールなどの学校行事を工夫していると思いますか。

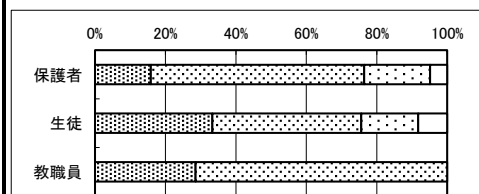


・一人一人の生徒の尊重については、人権教育を学校教育の根幹に据え、教職員一人一人が生徒にしっかりと寄り添うことを大事にしています。教職員と生徒・保護者の意識に少し差が見られますが、保護者の方も70%を超えて肯定的に捉えていただいています。個に応じた指導を更に充実させ、認め・褒め・励ましながら、自己肯定感が高まるよう努めていきます。
 ・友だちへの思いやりについては、教職員より保護者・生徒の意識が非常に肯定的な結果となっています。今後も、支持的風土のある学級経営を目指し、相手の気持ちを考えて行動できる生徒の育成に努めます。
 ・制限が多くありましたが、体育大会や合唱コンクールに参加していただきありがとうございました。コロナ禍の中の工夫と生徒の頑張りが高い評価につながったものと考えられます。今後ともできる限りの内容の充実を図っていきます。

生徒指導 教育相談について

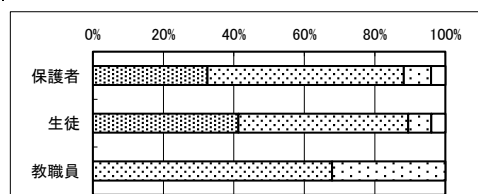
12 生徒理解

学校は、子どものよさを見つけ、理解しようと努めていると思いますか。



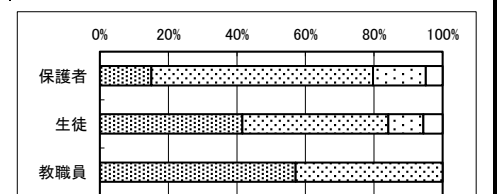
13 規範意識

子どもは、規則やマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校は、いじめや問題があったとき、すぐに対応していると思いますか。

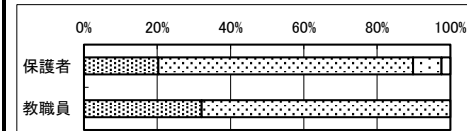


・生徒理解については、保護者・生徒は横ばいで教職員は肯定的にとらえています。今後とも生徒の変容を見逃さないよう日頃の生徒観察に努め、生徒のよさを認め、ほめ、励ますことを基本に接していきます。生徒の悩み等についてはすぐに対応できるように教育相談体制やカウンセリング研修の充実を目指します。
 ・規範意識については、昨年と比べて教職員の評価が低くなっています。保護者との連携を図りながら、生徒に善悪の判断をしっかりと付けさせ、ルールやマナーを守る態度を身に付けさせます。
 ・いじめや問題への対応については、保護者・生徒とも昨年と同様に肯定的に受け止めています。教職員の評価が高くなりました。全体に肯定的評価が80%を超えています。
 ・令和4年度熊本県心のアンケートでは、『本年度いじめを受けた』と回答した生徒の割合は、昨年同様減少しました。また、すべての事案が解決の方向に進んでいます。今後も、鏡中いじめ防止基本方針を基に未然防止や早期対応、早期解決に努めていきます。いじめについての情報提供や相談等の窓口は教頭へご連絡ください。

健康教育 安全について

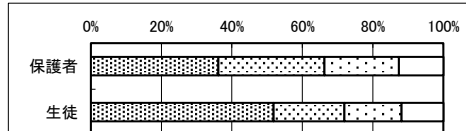
15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



16 体力向上

子どもは、すすんでスポーツなどをしていると思いますか。

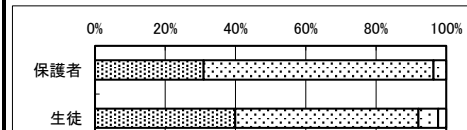


・安全と事故防止については、交通安全教室や、一斉下校時の全体指導などの取組を行いました。日頃の指導を通して交通ルールや交通マナーを遵守する態度を養っていきます。自転車通学生徒に事故防止の指導や安全教育（ヘルメットやたすきの着用）を徹底していきます。また、安全安心メールを用いて、安全面の情報提供をしていきます。
・体力向上については、生徒・保護者は高く、教職員は意識の低下が見られます。部活動加入率の低下が大きく影響していると考えられます。そのような中でも体育大会や駅伝競走・持久走大会を行うことができました。工夫しながら体力向上の取組を行っています。

学校環境について

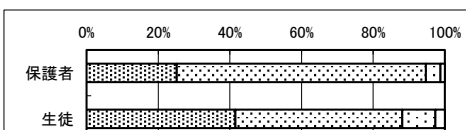
17 環境の整理・美化

学校は、校舎内外（花壇や掲示物など）をきちんと整理していると思いますか。



18 施設・設備の安全管理

学校は、施設・設備を、安全でよく整備・管理していると思いますか。

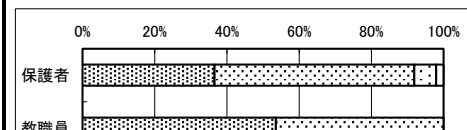


・環境の整理・美化については、昨年度と同様に三者とも高い評価となっています。今後も縦割り無言清掃の充実を図りながら、校内美化や整理・整頓を心掛け、学校施設・設備をはじめ、物を大切にできる生徒の育成を目指します。
・施設・設備の安全管理についても、高い評価となっています。毎月はじめの安全点検及び日常の点検を行っています。異常箇所や破損箇所等を発見した場合には、可能な限り早期に修理・修繕等を行うなど、安全管理の徹底に努めます。

情報の公開・発信について

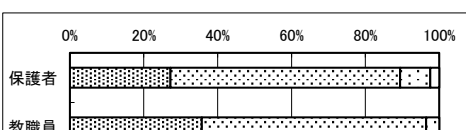
19 学校の予定等がわかる情報発信

学校は、文書やメール等で学校の情報を十分発信していると思いますか。



20 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

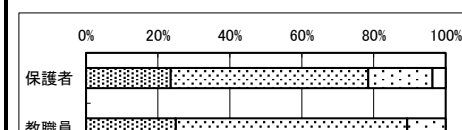


・学校の予定等がわかる情報発信については、年度はじめに年間行事予定表を配付し、保護者への周知に努めています。また、学年通信や学級通信、安全安心メール等で学校の様子をわかりやすい形で発信していきます。同時に、インターネットを活用し、鏡中ホームページを随時更新しながら学校の情報を提供することが不足していましたので、今後改善していきたいと考えています。安全安心メールで本アンケートを行うなどICTを活用した連携ができています。
・教育活動への参加については、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、学年懇談会・学級懇談会を2回中止せざるを得ない状況となりました。それでも体育大会や文化祭などの行事において、多数のご参観をいただきましたことに感謝しております。今後も新型コロナウイルス感染状況を見据えながら学校行事の可否を判断してまいります。

家庭・地域の連携について

21 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携し協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



・家庭との連携については、担任や学年部との情報の共有に努め、教育相談を充実させます。また、PTA活動への理解を求めながら、各種情報を提供しながら活動の充実を図っていきます。
・地域との連携については、鏡まちづくり協議会と連携しながら、学校・保護者・地域が手を携え、地域とともにある学校を目指していきます。

来年度の具体的な取組について

・今年度、教職員の連携強化による学校全体の取組が効果的に機能しました。今後もコロナ禍の中、不登校生徒の解消及び未然防止を図るため、また、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、健康衛生面にも注視しながら日常の観察や生活ノート（鏡魂）の活用、生活アンケートの実施、教育相談等とおして、生徒の変容や心のサインを見逃さないよう努めるとともに、「愛の123運動+1」をはじめとする、早期対応を実践していきます。また、SCやSSW、専門機関との連携による相談活動の充実、定期的な不登校対策委員会を実施し、「チーム鏡中」として全職員で協働して取り組みます。
・学力向上に関しては、「熊本の学び推進プラン」を核に、「ま・ナビ やつしろ」に沿って全体で取り組み、県学力調査を始めとする各種調査の結果分析とその具体的な対策の確実な実施、PDCA検証改善サイクルの確立と校内研修、ICT機器の活用を通して、学校総体での授業改善に取り組み、「授業が分かる」「学校が楽しい」と感じる生徒の割合をさらに増やしていきます。また、保護者と連携して家庭学習の習慣を定着させる取組を行います。さらに「令和5年度熊本県学力調査」においてすべての教科で県の平均を上回ることを目指します。
・いじめのない学校を実現するために、日頃の生徒観察や生活ノート、定期的なアンケート調査や教育相談等を通じた早期発見・早期解消の取組を継続していきます。また、各学級で作成する「心のきずなを深める宣言」第5条の活用やその振り返りを実施したり、道徳の授業において担任だけでなくチームで「命の大切さ」の視点に立った授業を展開したりして、いじめを許さない意識の高揚と支持的風土のある集団の育成を図ります。

学校関係者評価

・先生が生徒の前で「叱る」ことはよくないと思う。叱るのは1対1の時で、「褒める」のはみんなの前で。いじめや不登校につながると思う。
・学校に登校できない生徒に心が痛みます。欠席者への連絡など、担任の先生方は大変なことでしょう。
・生徒はよく挨拶をしている。
・いじめによる不登校もあると思われるので、不登校の原因も把握する必要があるのではないかなと思う。八代市の教育委員会へも伝えていただきたい。
・合唱コンクールの動画から、1年生の時に協力できない姿を見かけたこともあったが、3年生になるにつれて協力し合う姿に変わってきておりよかった。